

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 28

学校名・団体名	長岡市立中島小学校
HPアドレス	http://www.kome100.ne.jp/nakajima-es
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	聾学校との交流を通して学ぶ共生社会を創る資 質・能力
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>昨年度までインクルーシブ教育システム構築のモデルスクール事業の委託を受け、特別な支援を必要とする児童の指導について研究を進めてきた。成果として児童のヒト・モノ・コトへの積極的なかかわりが見られるようになった点が挙げられる。今年度は、それをさらに発展させ、聾学校の児童との交流を、将来の共生社会創造に向けた一歩と位置付けた。児童が活動を通して得た、他者を認めることや協力や思いやりの気持ちは、共生社会を創造するエネルギーになると考える。</p>	

<活動・研究報告>

1 学校全体としての取組（学校全体の計画として長岡聾学校との関わりを進めた取組）

① 映画鑑賞会

聴覚に障害のある今村彩子さんが出演、監督した、映画「Start Line」を鑑賞した。

鑑賞者は、当校の全児童と教職員、鑑賞を希望した保護者や地域住民、長岡聾学校の小学部、中・高等部の児童生徒と教職員、鑑賞を希望した保護者だった。合計 265 名が鑑賞した。

低学年でも関心をもって最後まで鑑賞できた。聴覚に障害のある今村さんを容赦なく叱咤する健常者の堀田さんの存在と 2 人のやりとりが強く印象に残ったようだった。

中学年の感想文には、今村さんがゴールまでやり通したことに感動した事が多く書かれていた。映画の中で自分が成長していないと悩む今村さんに対して「毎日成長していた」と感想を書いた 4 年生の言葉がそれを象徴していると考えられる。

高学年は障害により顕在する違いと、障害があっても違いにならないこともあることに気付いていた。「何もできない自分はいなくてもいい」と考える今村さんに対して「何もできなくてもいるだけで安心できる」とやり返す堀田さんの言い合いから、自分の存在、友達存在について考える子が多くいた。

聾学校の児童生徒からは、今村さんの挑戦する姿や積極的にコミュニケーションをとろうとする姿に、学ばなければならないという感想があった。

障害があっても一緒にできることや困難に立ち向かうことや挑戦することは障害のあるなしに関係ないこと、聴覚に障害のある人とコミュニケーションをとるときの配慮を子供たちは学ぶことができた。

② むつなみふれあいフェスティバル(児童会祭り)

聾学校の小学部の子供たちを招いて、体育館でゲームをしたり抽選会をしたり、3 年生以上が教室をテーマパークに見立てた出店を作ったりして楽しむ活動を行った。

一昨年度くらいまでは、当校の子供たちが当日までの準備を全部行い、当日は、聾学校の子供たちがお客さんとして当校に招かれる形で運営していた。それを発展させ、聾学校の子供たちも出店等の主催者として参加してもらうようにしてきた。

準備段階から各学年(3 年生以上)で交流を重ね、役割分担をして担当する制作活動に共に取り組んだ。当日は店番や担当するコーナーの係なども聾学校と当校の子供たちが協力して行った。

この取組が可能になるには、この段階に至るまでに、各学年でそれぞれのねらいに即した交流が継続されてきたことが大きい。(各学年の取組については次で述べる。)継続してきた取組により、聾学校の子供たちと当校の子供たちとが顔と名前の分かる関係になっていた。それにより、ふれあいフェスティバルの準備の取組も通常の交流あまり変わりのない雰囲気の中で活動することができたと考えられる。共に主催者として参加できたので、フェスティバル終了後の充実感や満足感は、共有できたのではないかと考える。

2 各学年の取組

① 1 学年の目標： 長岡聾学校児童のもつ特性のおおよそが分かり、思いやりの心をもって、進んで仲良く活動することができる。

○ 活動報告： 6 月・聾学校で自己紹介、ゲーム。7 月・水泳（中島小プール）。8～9 月・ドッジボール、ゲーム。2 月・柿川雪祭り。

1 回目の交流後、すぐに顔と名前を覚え、近くの学校の同じ 1 年生の「友達」という意識が芽生えた。交流回数が増えるにつれ、笑顔でコミュニケーションをとる姿も増えてきた。特に、フェスティバルの際、同じグループで回りたいと希望し、上手に相談しながら参加することができた。雪祭りでは、聾学校の代表として多くの役割を果たしている姿に、「堂々と言えてすごいね。」「発表上手だね。」のようなあたたかいエールを送っていた。

② 2 学年の目標： 長岡聾学校の友達のことを理解し、思いやりの心をもって、進んで仲良く活動することができる。

○ 活動報告： 5 月・自己紹介、運動会玉入れ練習。6 月・寺泊水族館見学（校外学習）。7 月・水泳、野菜観察。10 月・ドングリ拾い、草木遊び。11 月・生活科「遊びランド」2 月・雪遊び。

活動を進める中で、肩をたたいてから話しかけたり、身振り手振りで伝えたいことを表したり、仲良くなるためにコミュニケーションを工夫する姿が増えていった。生活科「遊びランド」の学習では、児童から「聾学校の友達を招待したい。」と声上がり、一緒に楽しく活動することができた。

③ 3 学年の目標： 長岡聾学校の友達とのコミュニケーションを心がけ、活動をとおしてかかわりを深めていくことができる。

- 活動報告： 4月・水道公園探検。5月・図工「ふんわりふわふわ」。6～7月・水泳。8～9月・マラソン練習，マラソン大会。10～11月・フェスティバル準備，本番運営。12月・米菓工場見学（校外学習）。2月・雪遊び。
長岡聾学校の4名の友達と，総合・社会での校外学習や図工・体育での授業，児童会祭り等で，年間15回程度かかわりをもつことができた。回数を重ねる毎に，自分から触れたり筆談したりして工夫しながら声をかけようとする姿が増えた。互いに笑顔でかかわり合うようになった。
- ④ 4学年の目標： 長岡聾学校の友達とのコミュニケーションを発展させ，協働して活動を創りあげることができる。
- 活動報告： 6月・聾学校見学と手話体験，水泳。7月・水泳，むつなみ塾。9月・マラソン大会。10月・聾学校部下債リハーサルに参加。11月・フェスティバル準備，本番運営。
6月の長岡聾学校見学の中で流行していたギャグを言い合ったり，伝わりにくい所は筆談をしたりしていた。校外学習で新潟市まで一緒に行くなど，長時間の体験的な学習もできた。また，むつなみふれあいフェスティバルの準備では，活動内容を教師の仲介なしで伝えたり質問したりしながら実施していくことができた。そして，当日も協力しあいながら出店を運営することができた。
- ⑤ 5学年の目標： 聴覚障害について理解する。よりよいかかわり方を考えながら，長岡聾学校の友達とコミュニケーションを深め，協働活動ができる。
- 活動報告： 6月・水泳，自然教室準備。7月・自然教室，水泳，むつなみ塾。9月・マラソン大会 11月・フェスティバル準備，本番運営。
長岡聾学校の子供たちと，年間14回程度かかわりをもつことができた。特に，自然教室では，グループごとに分かれて計画を立てたり，準備を行ったりする中で，コミュニケーションを深め，当日は自然に協働活動ができるようになった。話す時にはゆっくり，口元が見えるように話したり，身振り，手振りを付けたり，ホワイトボードを使って筆談をしたりと，今までの経験から，楽しく自然にかかわることあできた。
- ⑥ 6学年の目標： 聴覚障害について理解する。よりよいかかわり方を考えながら，長岡聾学校の友達とコミュニケーションを深め，協働活動ができる。
- 活動報告： 5月・プール清掃。6月・水泳。7月・昼休み交流（中島小），むつなみ塾。8月・陸上練習，マラソン練習，記録会。9月・マラソン大会，親善陸上大会。10月・昼休み交流（中島小）11月・フェスティバル準備，本番運営。12月・昼休み交流（聾学校）。3月・4校ふれあい交流（中島小）
長岡聾学校の4名の児童と交流を行った。今年度は，主に体育の授業を中心に一緒に活動した。プール清掃や水泳授業だけでなく，マラソン記録会や親善陸上大会に向けた練習も合同で行った。継続した交流を通して，聴覚障害を理解するとともに，自然なかかわりができるようになった。ジェスチャーを入れたり，口を動きが分かるような話し方をしたりするかかわり方が抵抗感なくできるようになった。

3 成果と課題 ○成果 ●課題

- 前年度までと比較し，交流する機会が大変多くなった。活動の内容も，日常活動，学習活動，行事活動と様々な場面でのものとなった。特に授業での交流がこれほど活発であったことはない。またこれにより，職員通しの事前打ち合わせがより密に行われるようになった。
 - 中島小学校，長岡聾学校が互いに訪問し合う，「双方向の交流」が無理なく出来るようになってきた。
 - 回数が重なるにつれ，両校の子供たちがよりリラックスして活動できるようになった。その中で，自然と子供同士が意思疎通の方法を考え出していった。職員は，子供たちのアイデアを褒めたり，より「相手の立場に立って」の視点からのアドバイスを行った。
 - 「StartLine」合同映写会を通して，子供たちが「障害のある人との交流」についての気付きや学びをレベルアップした。特に，普段言葉にして伝えることが難しい内容について，気付いている子供もいた。また，地域や保護者の方々にも，当校のインクルーシブ教育推進について理解していただく機会ともなった。
 - 今年度は，長岡聾学校の中等部・高等部との交流も行えた。
 - ・運動面でのアドバイザーとして
 - ・生徒会活動への参加，協力
 - 自然教室や校外学習などの交流を，日時の授業での交流につなげていく工夫も今後必要だと考える。
 - 今後，当校の特別支援学級とのイベント的な交流を考えたい。
- 両校の職員同士，遠慮せず互いの思いや要望を伝え合えるよう，関係作りを進めていきたい。